

Amman, Jost

Πανοπλία omnivm illiberalivm mechanicarvm avt sedentariarum artium genera continens, quotquot vnquam vel à veteribus..., ed. per Hartman Schoppervm, [gravé per] Jost Amman.

Francofvrti, ad Moenvm : Impensis Sigismundi Feyerabent, 1568.

1vol. 130 plates (wood mono.). 15.8×10.5cm. <K383. 13-0> 文献番号 5-13

Hiler p. 24 Colas 111-112 Lipper. 1948

アマン, ヨスト『職人絵づくし』

本書は通称『職業絵づくし』,あるいは『職業図鑑』などと呼ばれ,本書が刊行された当時の社会に存在した様々な職業,それに従事する人々の姿を図像と詩であらわしたものである。初版は1568年に刊行された。この初版は,ニュルンベルクの民衆詩人,ハンス・ザックス(1494-1576)が書いたドイツ語の八行詩とヨスト・アマンの木版画114図からなっている。ハンス・ザックスは靴職人にして詩人であった人物として,ドイツ文学史上よく知られている。同じ年,ハルトマン・ショッパーによるラテン語版が出版されて,図版は130図に増やされる。文化女子大学図書館所蔵本はそのラテン語版であり,したがって第2版にあたる。さらに,6年後の1574年に第3版(ドイツ語,132図),同年さらに第4版(ラテン語,132図)と順次,版を重ねた。ここまではすべてフランクフルト・アム・マインの出版者,ジギスムント・ファイヤーアーベントが出版したものである。その後,版元を変えて1600年,1618年,1641年,1649年というように繰り返し後刷りが出版されている。この事実から,本書は初版刊行後100年近くにもわたって広く流布したものであることがわかる。

ドイツ語版とラテン語版とでは図版に若干の異同がある。ラテン語版では「哲学者」と「皇帝」が追加され,「オルガン作り」と「鼓手」が削除された。さらに軍人の階級を描いた18図が加わっている。

版画を制作したヨスト・アマン(1539-1591)はチューリッヒで生まれた画家・版画家である。父は修辞学の教授だった。若い頃にどのような人物のもとで美術・工芸の訓練を受けたかははっきりわかっていない。しかし少なくとも,1550年代には遍歴修業の旅に出て,バーゼルに滞在していたと推測されている。1560年代に入ってニュルンベルクに移り工房を構えた。本書の挿絵の木版画もニュルンベルクで制作されたものだ。アマンは銅版画約270点,木版画約500点と,非常に多くの作品を制作しているが,これは,銅版画にしろ木版画にしろ,図書の挿絵のための仕事が非常に多かったせいである。また同時にアマンがかなり規模の大きな美術工芸の工房を経営していたことを示す事実でもある。1500年代中頃から後半にかけてのニュルンベルクは,美術・工芸の分野で世代交代が起こっていた。1528年にアルブレヒト・デューラーが世を去り,その影響を強く受けた画家たちも

1550年頃までに亡くなっているからである。ヨスト・アマンはその世代に変わってニュルンベルクを代表する美術家として活躍した。

ニュルンベルクは古くからすぐれた手工芸を生産してきた伝統のある町であり、さまざまな職種の職人が活発に活動する一大商業都市だった。また神聖ローマ帝国の皇帝直轄の自由都市として、市民階級が実権を握ってきた町でもある。そういった町の雰囲気は、アマンが巧みに描き出したヴァリエーション豊かな「働く人々」の姿に見事に捉えられている。人々の服装や工房のしつらえ、店先の様子、職人が使う道具類と作業の仕方など、どの点をとっても民衆の姿を活写した優れた風俗画であり、同時に貴重な歴史的資料でもある。本書の挿絵が今日にいたるまで、歴史書などで頻繁に取り上げられるのもうなずけよう。

また、本書の出版元であるフランクフルト・アム・マインのジギスムント・ファイヤーアーベントとアマンとは、1563年頃から緊密な結びつきを築いていた。この両者の協力によって、豊富な挿絵版画の入った図書が多く世に送り出されている。(佐川)



図1 木版師

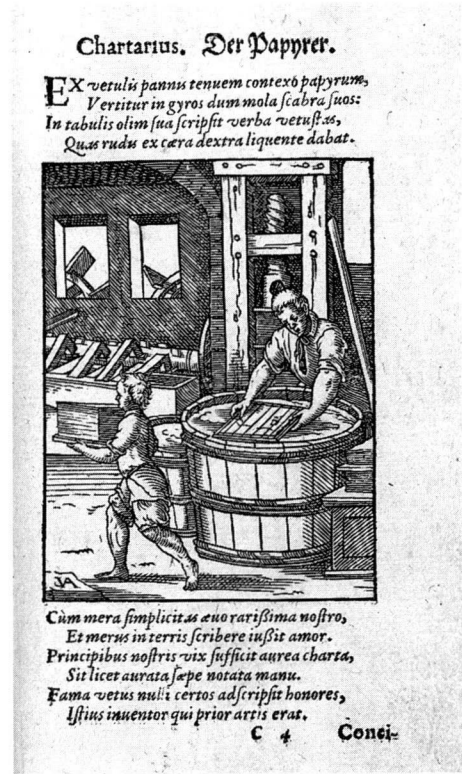


図2 紙すき